

第29号

大垣教区 坊守会だより

2022年8月31日

大垣市伝馬町

真宗大谷派 大垣教務所内

「大垣教区坊守会」発行

特集Ⅰ 「寺族女性」という言葉
を再考する

特集Ⅱ 大垣教区坊守会
アンケートについて
ほか



特集 I

「寺族女性」という言葉を再考する

大橋尚代

大垣教区坊守会だより第 27 号（2020 年 9 月 1 日発行）には、「真宗大谷派大垣教区坊守会規約の一部改正について」という特集があります。2019 年 7 月 26 日開催の坊守委員会において「真宗大谷派大垣教区坊守規約の一部改正について」が審議され、承認・同日施行されたことを受けて編集されたものですが、今回はこの規約改正の経緯をたどりつつ、「寺族女性」という言葉を改めて考えていきたいと思えます。

大垣教区坊守規約改正（2019 年 7 月 26 日施行）

※ここでは第 2 条のみについて取り上げます。

第 2 条旧条文 「本会は、各組坊守会で組織し、教区内の坊守及び本会の趣旨に賛同する寺族女性をもって会員とする。」【改正前】

↓

第 2 条条文 「本会は、各組坊守会で組織し、教区内の坊守とそれに準ずるもの及び、本会の趣旨に賛同する寺族をもって会員とする。」【改正後】

改正後には「女性」の文字が削られています。その経緯について、条例改正の審議をされた当時の教区坊守会長（第 14 組林覚寺坊守：大橋千早さん）にお話を伺いました。

大橋さんが教区坊守会長に就任し坊守会連盟の常任委員として会議に出席して、寺院教会条例第 20 条の「坊守」の定義を目にした時、そこには「女性」という文言がどこにも無いことに気づきました。そして各教区の状況を知るうちに、他教区には「男性坊守」がちらほら存在することが明らかになりました。そういう背景から自然な流れで教区坊守会の常任委員会でも議論され、大垣教区の条例にあった「寺族女性」の中の「女性」が削られることになったそうです。

大垣教区坊守会だより第 27 号で一度記事を掲載してくださっているにもかかわらず、なぜ今、このような記事を書いているのでしょうか？

実は私たちが昨年 9 月に全ヶ寺配布した学習会のお知らせに、「女性寺族」という文言を使用するということがありました。これは「現職の坊守」に限らず広く皆さんに参加していただきたいという願いから出た言葉なのですが、「規約改正」後の条例に沿わない内容であったことを、お詫びして訂正いたします。

どんな問題でも、当事者や関わりを持った人でないとなかなか自分の問題にはなりません。そのことを今回の出来事で身をもって知ることができました。坊守は「女性」に限定しないということの意味を、この機会にじっくり憶念したいと思います。



特集Ⅱ

大垣教区坊守会アンケートについて

平素は大垣教区坊守会の活動に対し、ひとかたならぬご協力、ご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。おかげをもちまして、新型コロナウイルス感染拡大の脅威の中ではありますが、なんとか無事にすべての行事を終了することができました。

さて、2021年度末にあたり、大垣教区坊守会ではアンケートを皆さんにお願いしております。アンケートを作成・実施するにあたっては次の二つが主な動機となりました。

その1…大垣教区坊守会の常任委員に就任して教区のホームページを確認したところ、坊守会についての情報が何一つ載っておらず、理由を尋ねたところ「坊守会は外郭団体だから」と言われました。(現在は、HPに掲載されています)

その2…コロナ下となり、教区坊守学習会への参加者がコロナ以前よりも一層低調になった感が否めない。果たしてその原因の根底にあるものは何だろうという疑問が湧きました。

そこで、アンケート作成に積極的に関わってくださる坊守さんを募り、教区坊守会長を中心にZoom会議で意見交換をして原案を作り上げました。そのうえで修正・加筆するなどさらに練り上げ、教区坊守会の常任委員の皆さんに見ていただき、ご意見を頂戴したものを皆様にお届けしております。

配布方法やアンケートの実施期間は、各組の坊守会長に一任しております。これから半年くらいかけて集計・分析・記録などの作業を進め、次号(大垣教区坊守会だより第30号)で、分析結果をご報告いたしますので、楽しみにお待ちください。

アンケート作成を念頭に、ある組の学習会で「ご自分にとって坊守会とは何でしょうか?」ということをお尋ねしたところ、とても大切なものであるという実感が伝わってきました。

コロナ下で対面による会議も限定的にならざるを得ない中、坊守会の皆さまのご協力のおかげでアンケートが実現できたことはとても嬉しい反面、問いの立て方や表現を十分に吟味できずに、お答えする皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

そのことも含めて書面をもちまして、改めてお礼申し上げます。

2022年 大垣教区坊守会アンケート	あなたの組をお書きください	組
<p>平素は、教区坊守会への格別の御高配、御尽力を賜り厚く御礼申し上げます。今期坊守会も随分とこう一年となりました。我々坊守を取り巻く環境は、目まぐるしく変化しておりますが、新型コロナウイルスの登場により、その流れが一気に加速したように思います。学習会を含めた活動全般が低調であり、もう一度坊守会がどうあるべきか、我々一人ひとりが「坊守」であることの位置づけを考える段階にきているように思います。</p> <p>そこで、教区坊守会が今後どのように継承されていったらよいか、皆様坊守会への思いを伺いたく、アンケートをお願いすることになりました。日頃坊守として多忙な日々をお過ごしのこととは存じますが、ご協力いただけましたら幸いです。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>回答にあたって *「はい」「いいえ」でお答えいただく場合はどちらからか○で囲んでください。 *具体的に記述してお答えいただく場合は()内にお書きください。書ききれない場合は余白などにお書きくださって構いません。</p> <p>設問1 寺院教会条例における「坊守」の定義は以下のよう記されておりますが、内容についてご存知でしたか? 第20条 住職又は教会主宰者の配偶者を、坊守と称する。 ② 住職又は教会主宰者が欠けた場合であっても、その配偶者であった者は、新たに住職又は教会主宰者が就任するまでの間、坊守と称する。 ③ 住職又は教会主宰者に配偶者がいない場合であって、特に必要があるときは、成年以上の寺族の中から選定した者を坊守と称することができる。 4 前任の坊守は、前坊守と称する。 2021年6月30日公示</p> <p>① はい ② いいえ</p> <p>設問2 設問1に出ています条例について疑問に感じることはありませんか? ① 疑問に感じることはある 具体的などんな疑問を感じているのかをお書きください。 () ② 疑問に感じることはない</p> <p>設問3 あなたは日頃から坊守という位置づけを必要であると感じていますか? ① はい ② いいえ</p>		
<p>設問4 教区では公開講座や真宗連続講座があり、大垣別院の同朋の会などの学びの場が開かれております。坊守会として学びの場をあらかじめ設けた方がいいと思いますか? ① 坊守としての学びの場はやはり坊守会として確保すべきであると思う。 ② 坊守としてあらかじめ学びの場を確保する必要は感じていない。 ③ 坊守会としての学びの場は必要だが、回数を減らしても良いと思う。 ④ その他 ()</p> <p>設問5 坊守学習会などへの参加率が低調ですが、もしよるんかったら、学習会に参加できない理由をお書きください。 ()</p> <p>設問6 あなたにとっては坊守会とはどんな存在でしょうか? ()</p> <p>設問7 坊守会は私たちにとってどのような存在であれば良いと思われませんか? ()</p> <p>設問8 大垣教区には若坊守会がありません。若い人に仏法や、お寺に身を置く同じ立場の人たちと出遇っていただく場が無いように思います。それを補う場をどのようにしたら提供できるでしょうか? ()</p> <p style="text-align: right;">ご回答どうもありがとうございました。</p> <p>お願ひ ・原則として各組の坊守会にてアンケートを提出していただきますようお願いいたします。 ・総会で提出できない場合は、教務所業務所に備え付けの坊守会専用ポストへ投函くださるか、FAXで送信していただきますようお願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">教務所 FAXは0584-78-3353 担当 小島様 ※坊守会専用ポストは、2022年6月1日より投函できます。</p> <p style="text-align: right;">大垣教区坊守会</p>		

2021年度 坊守研修会 を終えて

今年度も新型コロナウイルス感染拡大に翻弄された1年になりました。大垣教区では5回の研修会が予定されておりましたが、第1回は岐阜県が「緊急事態措置区域」に指定されていたため、中止になりました。詳しくは後ほど、事業報告として記載いたしますが、各回に参加された方々に、聞法された感想を書いていただきました。ぜひ、今後の参考にしていただければと思います。感想をお寄せいただきました皆様には、あらためて御礼申し上げます。
※各研修会での写真は、広報委員が撮影させていただきました。

第2回 坊守研修会 2021年10月29日(金)
講師：藤懿信麿氏(大垣教務所長・大垣別院輪番)

「お寺で生きる」

横山 智子(第9組 勝善寺)



お寺に身をおき、お寺で生きるとはどういうことか、ご門徒や地域社会との関係の中で、坊守としてどうあればいいのかなど、問いとともに今、お寺で生きています。

第9組は過疎化が進む地域にあり、門徒の数が激減しています。その中で寺の行事のあり方もずいぶん変わってきました。報恩講や永代経法要をはじめとする寺の行事を、過去に行ってきた通りに行うことが不可能になってきています。どの寺においても、今後のあり方が喫緊の課題となっています。

今回、大垣教務所長である藤懿信麿氏に「寺に生きるとはということなのか」という内容で、ご講義をいただきました。

寺はご本尊を安置し、儀式を行い、教えを聴く聞法の道場です。人々が入りやすくするとともに、住職・坊守・寺族・門徒が定期的に、どのように運営していくか話し合うことが大切です。身近に仏法を聴聞する機会の多い坊守は、仏法と一緒に聴く法友を持ち、坊守同士でも語り合うことが大切であると教えていただきました。

私たち坊守は皆、寺院としての活動を活性化していく必要性を感じますが、坊守が不在の寺もありそれぞれの寺で実情が異なります。しかしどの寺においても、アンケートを取るなどして現状を把握し、活性化への解決策を考えていく必要があります。

過疎の地域にある寺として、今後どのように儀式を行い、教えを聴く聞法の道場としての役割を果たすべきか、課題がさらに明確になってきました。自坊の歴史やしきたりを大切にしつつ、広い視野で物事を見つめたいと思います。そのため、積極的に聞法や坊守会などでの交流や研修に励み、その見地から自分自身を見つめ、高めていくことが大切であると実感しました。

第3回 坊守研修会 2021年11月15日(月)講師: 佐竹^{さたけ} 哲^{さとし}氏(大垣教区第13組 祐泉寺住職)**「今も問われる女たちの戦争責任」**

禿 あつ子(第13組 樂邦寺)

13組祐泉寺住職・佐竹哲師より、上記の内容について高須別院でお話を聴きました。住職歴27年の佐竹師は、靖国問題推進部から始まり別院平和展、竹中彰元さんの集い、「憲法九条の会」など、幅広く「非戦平和」について活動され、「教えに出あわなければ、現在のように、非戦にこだわり続けていないと思います。」と、話し始められました。

■ 岡部伊都子さんの生き方

「第二次世界大戦の中、婚約者から『戦争は間違っている』と言われたのに、その深い思いが分からず、当時教えられていた通り、旗を振って送り出した。戦後、みんな、自分は被害者だと思っているが、私は『加害の女』だと思っている」と話され、このことを一生背負っていかれたと思う。岡部さんには、1995年の「別院平和展」で記念講演をしていただいた。

■ 勝ち戦と女の加害性として、1981年、朝日新聞に記載された加納実紀代著「銃後史を歩く」の中で、「あの惨禍をもたらした戦争の日々を、美しく、生きがいがあったという60代以上の女性が多い。勝つか負けるか、二者択一の単純明快さは、美しい。満州事変を起点にとるならば、勝ち戦の時期は長く、日本人は、女たちも含め、侵略体験を共有している。これまでの戦争体験の伝えられ方が、いかに一面的なものであったかを思わざるをえない。」と、あります。

■ 戦前、戦時下の女性団体は多数ありましたが、1931年頃から、「国防婦人会」が誕生し、家庭に閉じ込められた女性が社会で活躍できる場所となり、銃後の守りをしたのです。

■ その当時の世間の空気をしっかり学び、世間の間違いに気がついたら、それを問う視点を持つ。真^{まこと}を宗^{むね}にし、過去生を受けていく。

以上のお話を聴き、この事を実践されたのは、瀬戸内寂聴さんだったと思います。今、私に出来る事は、「九条の会」に少しでも参加していくことではないかと思いました。

第4回 坊守研修会 2022年2月2日(水)講師: 秦^{はた} 信映^{しんえい}氏(長浜教区第24組 明德寺前住職)**「転迷開悟」**

一人と生まれたことの意味をたずねていこう

山 村 祥 子(第12組 廣栄寺)

人がこの世に生まれてきた意味、何のために生まれてきたか?何をするためにここにいるのか?というテーマでお話を聴きました。私は自分が今まで生きてきたこと、そしてこれからの生き方について考えてみました。4人兄妹の2番目で長女である私は幼少期から何かと我慢をしてきました。何かあればお姉ちゃんだから…と言われ、揉める事が面倒だと思ひ親の言いなりにすることが楽だという時もありました。特に4歳の時に習い始めたピアノは親の勧めで始めましたが、だんだん好きになり、ピアノは誰にも負けたくないものになっていきました。ピアノを始めたきっかけは親が作ってくれましたが、将来ピアノ教師になりたいと思ひ、「音大に行きたい」と初めて親に想いを告げたところ、理解してくれました。

今ではピアノ教師は天職です。生徒さんやその親さんとの出会いは、私にとってとても刺激になります。中には親子二代で関わっている生徒さんもいます。それも全てご縁があつての事だと思います。実は私が出た音大は仏教の大学でした。後にご縁があつてお寺に嫁いだ時には、恩徳讃と真宗宗歌は歌えました。とても不思議な縁を感じました。

そんな私がお寺に嫁いで27年。良い事も悪い事も、真実である事ない事、中には何でそこまで言われる必要があるのか?などなど。傷ついて落ち込んだ時もありましたが、そんな時3人の子供が勇気と元気をくれました。子供にはできるだけそれぞれの意見を聞いて、やりたい事を自由にさせて元気に育ててくれたらと思ひ、子育てをしてきました。そして今年、次男が成人式を迎えました。これからは自分のやりたい事もしながら住職と共にお寺の事も勉強していこうと思ひます。人との出会いを大切に歩みつつ。

第5回 坊守研修会 2022年3月9日(水)

講師：四衢^{よつじ} 亮^{あきら}氏(真宗大谷派青少年センター
 研究員/岐阜高山教区 高山1組 不遠寺住職)

「コロナ禍における青少年教化」

松島 頼子(第12組 傳香寺)

3月9日、岐阜高山教区不遠寺のご住職・四衢 亮師より「コロナ禍における青少年教化」というタイトルでお話を拝聴しました。

先生は、真宗大谷派における青少年教化のこれまでの歩みを振り返り、「教化という言葉に気負い、図らずも自らを教化者とし、青少年を教化される人として立場を固定化するという問題点があったのではないだろうか。それにより、青少年の実像をかえって矮小化し、その姿を見失っていく一方的な教化であったといえる(略)」と話され、「青少年を青少年活動の主体者とし、その活動への参加・参画を支援する態勢を整えたい」と結ばれました。

コロナ禍によって、これまで表れてこなかったさまざまな問題が顕在化しています。その一つがいのちの選別、優生思想という問題です。また、初期の頃に見られた新型コロナウイルス感染者への過剰なまでの反応・攻撃もありました。2021年に自殺した児童生徒数は415人(文部科学省発表による)。これは10年前に比べて2.7倍の増加で、先進主要7か国(G7)における子どもたちの自殺率は、日本がワースト1だそうです。

現在、私には10代20代の子どもはいません。しかし、こういう実態を知ると、自分に無関係とは決して思えません。先生は、「子ども社会は大人社会の縮図だ」とおっしゃいました。本当にその通りだと思います。

私たちは生きづらさをそのまま子どもたちに押し付けてはいないでしょうか。大人が生きづらければ、子どもたちはもっと生きづらいことでしょう。未来に希望の持てる社会にするために、大人が青少年から学べることはたくさんあるように思います。

**東海連区坊守研修会に参加して**

坊守会会長 稲葉 佳代(第1組 等覚坊)

5月17日、岡崎教区主催の東海連区坊守研修会が開催されました。当初は対面での研修会が予定されていましたが、新型コロナウイルスの感染を考慮し、岡崎教区の坊守さんたちと他教区の坊守会長、次担当番である三重教区の役員は対面で参加、その他の方は配信での参加というハイブリッド形式でした。

2年前には、名古屋教区主催の研修会が中止となり、昨年は岡崎教区の開催が延期となりました。今回はやっと開催でき、感慨深いものでした。岡崎教区役員の皆さんは、どのようにすれば開催できるのか悩まれたことでしょう。その御苦労に頭が下がる思いです。

また、当日は椰野氏の琵琶による蓮如上人御絵伝の語りに感動しました。語られる表情や何気ない仕草、迫り来る音は対面でしか味わえないものです。対面の良さを改めて実感しました。

今後、東海連区の坊守研修会を、どのように開催すべきか、各教区がその時の状況に合わせて検討していく必要があるでしょう。東海連区坊守会が大切にしてきた伝統を消してはならないと痛感致しました。



2022年度大垣教区坊守会事業計画

テーマ いま寺（こ）に生きる 一問いととにもに 一

2022年度 坊守研修会（全5回）

※会場は大垣教区同朋会館 講堂ほか
時間は午後1時30分～3時30分

■第1回

日時：9月14日(水)
講師：平等良香氏(福井教区第4組 徳永寺住職)
内容：声明作法等、実践を学ぶ

■第2回

日時：10月31日(月)
講師：目黒達哉氏(同朋大学教授)
内容：傾聴からのグリーンフケア

■第3回 ※会場は高須別院仏間

日時：11月10日(木)
講師：里雄淳意氏(大垣教区第17組 緑林寺衆徒)
内容：未定

■第4回

日時：2023年2月10日(金)
講師：梶井壽雅子氏(大垣教区第7組 蓮徳寺坊守)
内容：仏華のたて方

■第5回

日時：2023年3月16日(木)
講師：岩佐幾代氏(岐阜高山教区 浄永寺坊守)
内容：各々を仏の正道に安立せしめる

住職・坊守追弔会

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、お斎接待はなし。

日時：10月20日(木) 会場：大垣別院本堂

大垣・高須別院報恩講・春の法要参詣協力

- ◆大垣別院報恩講 12月10日(土)～13日(火)
- ◆高須別院報恩講 12月16日(金)～19日(月)
- ◆大垣別院春の法要 2023年5月厳修予定
- ◆高須別院春の法要 2023年4月厳修予定

東海連区坊守研修会（連区坊守会事業）

当番：三重教区

日時：2023年5月17日(水)

会場：未定

真宗大谷派坊守会連盟宗祖親鸞聖人御誕生 八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要記念大会

日時：2023年4月11日(火)

会場：本山 御影堂

講師：山崎 龍 明氏
やまざきりゅうみょう

教区坊守会委員会（総会）

日時：7月25日(月) 午後1時30分～

会場：大垣教区同朋会館 講堂

対象：大垣教区坊守会委員

大垣教区「坊守会だより」発行

発行日：8月31日(水)

2021年度坊守会連盟主催の「若坊守研修会」「坊守研修会」を受講して 大橋 尚代

4月19日(火)と20日(水)の両日、2021年度坊守会連盟主催の「若坊守会研修会」「坊守研修会」がインターネットによるライブ配信で開催されました。

「若坊守研修会」では酒井義一氏(東京教区存明寺住職)が、「親鸞への道—悲しみが、いま、世界をひらく—」というテーマで、お寺で開いておられるグリーンフケアの活動などを通じてのご自分の歩みをお話しされました。グリーンフケアとは「大事な人や大事な何かを失った時に、人間が感じる苦しみや悲しみを大切に作る動き」です。「悲しみは乗り越えるべきものではなく、意味をたずねていくもの」という言葉を紹介してくださいました。

思いを語る人の話を聞いている時に、相手の言葉を反復するのは「聞いていますよ」というメッ

セージですし、相手が沈黙している時は、その沈黙を壊さないようにします。また、相手が辛さについて語ってくれている時は、「辛さについて教えてくださいませんか?」と問い返します。これらは相手のことを聞かせて欲しいという思いの発露なのです。

「坊守研修会」は鶴見晃氏(同朋大学仏教学科教授)が「念仏申す生活—現代社会を通して—」というテーマでお話しされました。

また「若坊守研修会」のスタッフを務めておられた坊守さんから、連盟のスタッフ会議で、「若坊守さんが集って交流する場が無い」という声が出ていたと伺いました。大垣教区でも若坊守さんたちの交流の場をどのように確保していくのが課題になりつつあります。

2021年度大垣教区坊守会会計 歳入歳出決算

	自 2021年7月 1日 至 2022年6月30日
歳入総額	2,170,418円
歳出総額	1,126,680円
差引残高	1,043,738円

2022年度大垣教区坊守会会計 歳入歳出予算

	自 2022年7月 1日 至 2023年6月30日
歳入総額	3,110,000円
歳出総額	3,110,000円

歳入の部

項 目	決 算 額
1 年 会 費	686,000
2 坊 守 学 習 会 費	51,000
3 一 日 研 修 会 会 費	0
4 連 区 研 修 会 参 加 費	0
5 教 区 助 成	500,000
6 連 盟 助 成	50,000
7 雑 収 入	9
8 繰 越 金	883,409
合 計	2,170,418

歳入の部

項 目	予 算 額
1 年 会 費	686,000
2 坊 守 学 習 会 費	60,000
3 一 日 研 修 会 会 費	320,000
4 連 区 研 修 会 参 加 費	400,000
5 教 区 助 成	550,000
6 連 盟 助 成	50,000
7 雑 収 入	262
8 繰 越 金	1,043,738
合 計	3,110,000

歳出の部

項 目	決 算 額
1 連 盟 会 費	425,360
2 報 恩 講 費	30,000
3 学 習 会 費	157,160
4 一 日 研 修 会 費	0
5 連 区 研 修 会 費	3,240
6 災 害 復 興 支 援 費	50,000
7 各 組 研 修 助 成 費	360,000
8 派 遣 助 成 費	2,960
9 会 議 費	5,537
10 機 関 誌 発 行 費	77,000
11 事 務 費	15,423
12 予 備 費	0
合 計	1,126,680

歳出の部

項 目	予 算 額
1 連 盟 会 費	425,360
2 報 恩 講 費	30,000
3 学 習 会 費	300,000
4 一 日 研 修 会 費	500,000
5 連 区 研 修 会 費	500,000
6 災 害 復 興 支 援 費	50,000
7 各 組 研 修 助 成 費	360,000
8 派 遣 助 成 費	100,000
9 会 議 費	30,000
10 機 関 誌 発 行 費	120,000
11 事 務 費	30,000
12 常 任 委 員 交 通 費	50,000
13 予 備 費	614,640
合 計	3,110,000

編集後記

「今までは〇〇だった」「普通は〇〇だよ」・・・そういうことが良くも悪くも通らない時代になっていると感じます。「困っていることを言葉にしやすい坊守会であるといいな」と思いつつ編集の仕事に携わせていただきました。(大橋) 年に一度の「坊守会だより」ってどんな意味があるのだろうかとお問自答しています。正直言えば毎月の教報に、もっと坊守会や坊守の活動を掲載してほしいとも思います。そして情報発信の大切さにもっと気づいてほしいとも思います。それが自らを見直すきっかけにもなるのですから。(松島)